

823  
M2A2

岷江入楚

海火

27

Journal of the  
[illegible]

篝火

三十之歲 雙也  
源中拍吹笛友

篝火

以列并效為卷名

豎並也

卷名源氏行

かへりおちよまをくく急のくつりてをよみ張せぬわはれとる

新西行玉うら

列

清茶のうへ中火の正さきこえうあゆ

又いとかけしきく志きうら中火よりをとめき

卷名以列并效号

源氏二十六家の始に

篝火

ひしり世のくはとくさうに

眼君といをに君のうきあうりの中とまはれぬ

世どのに存くよ物のあきまありにまはをに君はみせ

川お流と源氏のかあよ白大序のありいなるをのぼ

とれぬよし也

こと何れくともあれ

うらよこをかうりくまこと女所あまありけりよは石

然と源氏ありいりや

美内大序は声女とまううその人の答あにりありま

なげさうりぬことよと

あうりていりぬ不肖あれとて親とてみと

あうりていりぬ不肖あれとて親とてみと

かくくアリスをいつてうらあ

あう奥流くまうくまはあうきと女所あまの歴く

中へてあうく人の喉よあうりあうりや

公はあこしなり

美分家のあきくあうりあうり

あきしむに日太君よいつりあふふとほのこけまふまふと  
いとまつくちむねあまふりた 是よりほの振帯をこ

美日太君此物といつり

美日太君常々言ふよ日太君の束帯とほの宮よはよいとゆふく  
あつたいふむつさぬつらんをさういふとさきむらひも  
けさむらよりさういふとさきむらひもさきむらひも  
人よいとあつたむらひもさきむらひもさきむらひも  
吾意のまふとさきむらひもさきむらひもさきむらひも  
りつたまふとさきむらひもさきむらひもさきむらひも  
向よおりのりつたまふとさきむらひもさきむらひも  
よ人のさきむらひもさきむらひもさきむらひも  
はたさきむらひもさきむらひもさきむらひも  
て人よさきむらひもさきむらひもさきむらひも  
美日太君ありあまふらむさきむらひもさきむらひも  
とほの日太君とさきむらひもさきむらひも  
<sup>必</sup>いとまつくちむねあまふりた

美日太君とさきむらひも

美日太君とさきむらひも

美日太君とさきむらひも

美日太君の束帯と振帯

美日太君とさきむらひも

美日太君とさきむらひも

美日太君とさきむらひも

美日太君とさきむらひも

美日太君とさきむらひも

美日太君とさきむらひも

美日太君とさきむらひも

美日太君とさきむらひも

美日太君とさきむらひも

美日太君とさきむらひも

美日太君とさきむらひも

まうつゝ知りありと存とて言ふよ知れぬりぬとてうとてうい  
はむりあり

美原の山かうけあつるこ

あきき清公一を

原の山かうきあひあつるあつるあつるあ

内山公とあきき清公とこれ誰とあつるあつるあつるあつるあ

公うとあつるあつるあ

えつらう舞正うとあつるあつるあつるあつるあ

秘 美原の山かうきあひあつるあつるあつるあつるあ

秘 美原の山かうきあひあつるあつるあつるあつるあ

秘 美原の山かうきあひあつるあつるあつるあつるあ

秘 美原の山かうきあひあつるあつるあつるあつるあ

初風の川か洞ノ前後うくつりともうまのあつるあつるあ

沖ことあと 美和勢うこ 秘 日

いとあつるあつるあつるあつるあつるあ

あつるあつるあつるあつるあつるあつるあ

美原の山かうきあひあつるあつるあ

美原の山かうきあひあつるあつるあつるあつるあ

美原の山かうきあひあつるあつるあつるあつるあ

美原の山かうきあひあつるあつるあつるあ

美原の山かうきあひあつるあつるあつるあつるあ

美原の山かうきあひあつるあつるあつるあつるあ

美原の山かうきあひあつるあつるあつるあ

美原の山かうきあひあつるあつるあ

美原の山かうきあひあつるあつるあつるあ

美原の山かうきあひあつるあつるあつるあ

美原の山かうきあひあつるあつるあ

美原の山かうきあひあつるあつるあつるあ

美原の山かうきあひあつるあ

美原の山かうきあひあつるあつるあつるあ

美原の山かうきあひあつるあつるあつるあ

清くあつたうらなひをいふとさういふ人へつゝあつた

まゆみの本れ

うらまうらちうらちうらぬ 舞火の燈籠よりあつた打招と云

必舞火の燈籠と比ぶるものなり 舞火の燈籠よりあつた打招と云

打招といふ舞火の燈籠をいふ所なり 舞火の燈籠よりあつた打招と云

伊勢の燈籠といふは舞火の燈籠なり 舞火の燈籠よりあつた打招と云

いひてはゆれつゝさすてはれし招といふり招燈籠なり

所へ去るまじく 舞火の燈籠よりあつた打招と云

清川筋のくさるをまきやうよまきころ也

物成つてまじく 舞火の燈籠よりあつた打招と云

うらうら 舞火の燈籠よりあつた打招と云

舞火の燈籠といふは 舞火の燈籠よりあつた打招と云

夏月あきかといふ 舞火の燈籠よりあつた打招と云

夏月といふは又立秋の日のあつた用中なり 舞火の燈籠よりあつた打招と云

秋の初より成ぬといふまじく 舞火の燈籠よりあつた打招と云

夏月といふは 舞火の燈籠よりあつた打招と云

舞火

舞火の燈籠といふは 舞火の燈籠よりあつた打招と云

秋の初より成ぬといふまじく 舞火の燈籠よりあつた打招と云

夏月といふは 舞火の燈籠よりあつた打招と云

秋の初より成ぬといふまじく 舞火の燈籠よりあつた打招と云

夏月といふは 舞火の燈籠よりあつた打招と云

秋の初より成ぬといふまじく 舞火の燈籠よりあつた打招と云

夏月といふは 舞火の燈籠よりあつた打招と云

秋の初より成ぬといふまじく 舞火の燈籠よりあつた打招と云

夏月といふは 舞火の燈籠よりあつた打招と云

秋の初より成ぬといふまじく 舞火の燈籠よりあつた打招と云

夏月といふは 舞火の燈籠よりあつた打招と云

町を火とりしつゝのまゝとあつたに方々あつたと決意するつゝ  
川を渡るゆゑにうらやまをとりしつゝのまゝとあつたに方々あつたと決意するつゝ  
とつゝのまゝとあつたに方々あつたと決意するつゝ  
いふゆゑにうらやまをとりしつゝのまゝとあつたに方々あつたと決意するつゝ

女君

あわ—此河のまゝ

女君のまゝ

此河のまゝとあつたに方々あつたと決意するつゝ  
必 舞火のまゝとあつたに方々あつたと決意するつゝ  
やうきまゝとあつたに方々あつたと決意するつゝ

舞火のまゝとあつたに方々あつたと決意するつゝ  
あつたに方々あつたと決意するつゝ  
あつたに方々あつたと決意するつゝ  
あつたに方々あつたと決意するつゝ  
あつたに方々あつたと決意するつゝ  
あつたに方々あつたと決意するつゝ  
あつたに方々あつたと決意するつゝ  
あつたに方々あつたと決意するつゝ  
あつたに方々あつたと決意するつゝ  
あつたに方々あつたと決意するつゝ

祝を珍重しつゝはあつたに方々あつたと決意するつゝ  
此河のまゝとあつたに方々あつたと決意するつゝ

人此あや—  
義 玉ころりつゝ此河のまゝとあつたに方々あつたと決意するつゝ

くわ—  
義 玉ころりつゝ此河のまゝとあつたに方々あつたと決意するつゝ

義 未橋をこころとあつたに方々あつたと決意するつゝ  
已上義

或抄—  
義 玉ころりつゝ此河のまゝとあつたに方々あつたと決意するつゝ

中納のまゝとあつたに方々あつたと決意するつゝ  
義 玉ころりつゝ此河のまゝとあつたに方々あつたと決意するつゝ

義 夕方の朋友れり  
義 玉ころりつゝ此河のまゝとあつたに方々あつたと決意するつゝ

義 栞本れり  
義 玉ころりつゝ此河のまゝとあつたに方々あつたと決意するつゝ  
後よ義をたつたに方々あつたと決意するつゝ



わさしと吹たり

秘吹たり

わめく

義源の船と秋あり

秘源のせしそと志の詞

清きしそとこあらはあん

夜ゆしし行ぬしとにまきうり

くわつまきく

義サニニト付

義父房中お栢木取中お栢木少お紅梅木

此中しよ弁少おしる

風の芳秋よありよりと吹つる

秋風ホノ色平烟と次の句盤侍烟

或河海楚思沙范雲水冷 高菴清晚管絃秋

風の芳秋しとありわくこのあまら元さうり

秋風ホノ色平烟と次の句盤侍烟

義源の詞

去乃くれくあん

清琴川い

義和琴うこ 弁日

和琴うれりし次句は声しの中ゆりゆり

おししれ丸ねとんあさくた

あつしきつとん川ゆ

源中おしとん志きて

義盤侍烟 當烟子

義云風れ芳秋よありきり

盤侍烟のしとあり

風の芳秋しとあり

義父房中の船

烟子こころい

中おのらふつ

義出

弁のぬひ

弁のぬひ

きわたり中此のゆるゆるいひくくあり

あつしあつしと色はし

義正云寛平清紀牟利世

桓武清の皇王二世孫皇名之才色長輝歎

物誤秋虫之嘯意同親徳曲調宛如松風之動曉後愛案困暇

不邪令歎文皮青島敷十行并綾羅衣裳

今案うとてとと虫の音に比とば此記のねとかけると

其折新と色下りき出あくあよあよとあり己と義

必不脱よ及いさりこそあやうき虫のしとく人いり

清と中ゆよゆつとせあり

必不脱 義正曰

又おとくは清丸をゆ

義正曰此れ中前二と

義のこらよりのもきこらし

義正曰此れ中前二と

は一頃むらうとと柏木の家兄弟の事とけあよあよとせあ海の

あふとくくうとよにかりせこのあやうきとけあ

あふとくくうとよにかりせこのあやうきとけあ

あふとくくうとよにかりせこのあやうきとけあ

あふとくくうとよにかりせこのあやうきとけあ

せと下れかかむらうとれうとりたうとりやまゆりの色  
義中よりありとけあ兄弟の事とけあよあよとせあ海の  
とけあ兄弟の事とけあよあよとせあ海の

こらひちあつしとけあ兄弟の事とけあよあよとせあ海の  
とけあ兄弟の事とけあよあよとせあ海の

あつしとけあ兄弟の事とけあよあよとせあ海の  
とけあ兄弟の事とけあよあよとせあ海の

あつしとけあ兄弟の事とけあよあよとせあ海の  
とけあ兄弟の事とけあよあよとせあ海の

あつしとけあ兄弟の事とけあよあよとせあ海の  
とけあ兄弟の事とけあよあよとせあ海の

あつしとけあ兄弟の事とけあよあよとせあ海の  
とけあ兄弟の事とけあよあよとせあ海の

あつしとけあ兄弟の事とけあよあよとせあ海の  
とけあ兄弟の事とけあよあよとせあ海の

あそんときこめよ 衆何んハ縁あり きのこのあそ

いこのあそよこめりしりあれんこ

必衆の字ハ縁あり きのこのあそよこめりしりあれんこ

衆あそんときこめりしりあれんこ

あそんときこめりしりあれんこ

あそんときこめりしりあれんこ

改せぬ中ハ清らなり 衆何んハ縁あり

あそんときこめりしりあれんこ

は君つらと人知事ハ縁あり

あそんときこめりしりあれんこ

あそんときこめりしりあれんこ

あそんときこめりしりあれんこ

あそんときこめりしりあれんこ

あそんときこめりしりあれんこ

衆何んハ縁あり

必あそんときこめりしりあれんこ

必あそんときこめりしりあれんこ

あそんときこめりしりあれんこ

あそんときこめりしりあれんこ

あそんときこめりしりあれんこ

あそんときこめりしりあれんこ

あそんときこめりしりあれんこ

あそんときこめりしりあれんこ

あそんときこめりしりあれんこ

あそんときこめりしりあれんこ

あそんときこめりしりあれんこ

あそんときこめりしりあれんこ

Handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

